

ごあいさつ

たましんコレクションの東洋古陶磁を日本・中国・朝鮮の順に展示いたしました。

人類が道具を使用するようになると、石器や木器などとならび土器の生産が始まります。土器の原料である粘土は他の素材に比べて入手しやすく、また可塑性に富んでいるため、造形が容易でさまざまな形態の器を作ることができることから、新石器時代にはおおいに生産され、その後陶磁器は焼成技術の進歩やそれに伴う釉薬の発見、展開などをはじめとする各種技術をさらに発展させ、堅牢で、美しい陶器、磁器へと展開するなかで、日常用器として広く普及し、各時代の生活様式に合わせながら洗練の度を加えて行きました。

陶磁器は、中国において生産技術を発展させ、また形態、文様などを洗練させてきました。日本や朝鮮ではそうした技術や形式を採り入れながら、それぞれの技術水準や生活様式に合わせて独自の作風を展開させています。

古陶磁はそれぞれの国の歴史、文化の所産であり、さらに日常に用いられた器物として、人間の歴史や生活を考える資料とみることもできます。この度の展示ではそうした歴史的背景に想いを馳せつつ、さらに各作品の魅力を味得していただければさいわいです。

2016年1月

たましん歴史・美術館